



9 松竹梅鶴龜図 瀧和亭 三幅対

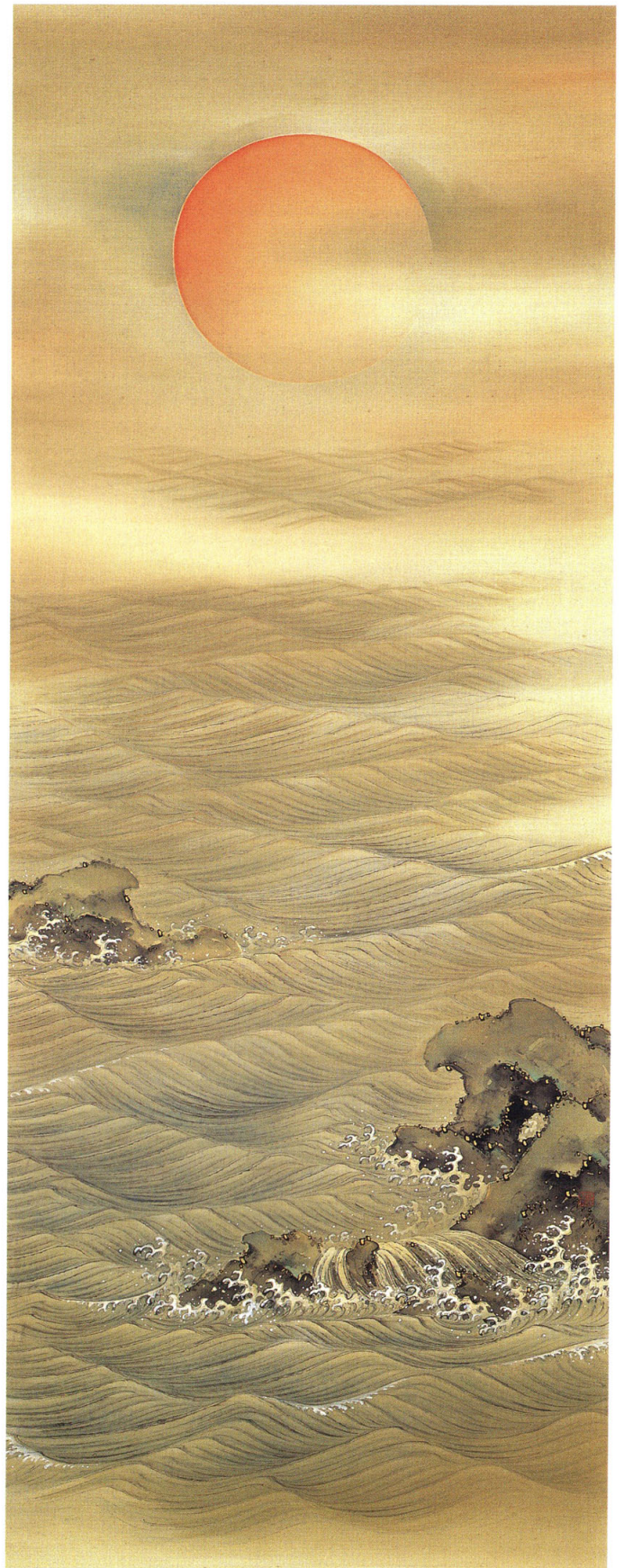
明治三十三年(一九〇〇)  
絹本着色 本紙各二二八・二×四九・五

画題としては、中央に旭日、右に松・鶴、左に梅・竹・亀を描いた典型的な吉祥画である。ただし、旭日の周囲に立ちこめる霞の金色と朱色の入り交じった色合いや、写実的すぎる鶴の表情には、一種独特な雰囲気を伴っている。

瀧和亭(一八三〇～一九〇二)は江戸千駄ヶ谷の生まれで、大岡雲峰の門に入って学んだ後、長崎に渡り南画をよくした春徳寺の僧鉄翁に師事し、また清の文人陳逸舟とも交わった。和亭は南蘋派、南北合派を得意とし、本図に見られる濃密で癖のある絵画表現は、南蘋などの明清画の影響を強く受けたものであろう。

本図は、明治三十三年五月に皇太子御結婚の御慶事につき、侯爵中山孝磨らより献上されたとの記録がある。







- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

福やぶござれ ― 寿ぎの美・新春に集う

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 42

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十九年一月六日発行

©2007, The Museum of the Imperial Collections